



nakaoyama
pottery
guide

8本の古い煙突、路地裏、
天日干しされる生地…。
ものづくりの気配が色濃い中尾山で、
お気に入りの器を探しませんか？

中尾山 やきもの 案内

足を伸ばして
鬼木へ
ONIGI

保存版

長崎県波佐見町

控えめに美しく
生活に馴染む器が
日本人の心に触れる



寄り添うように窯元や家屋が立ち並ぶ。世界最大級の登り窯跡が2基あるのも特徴。

1644年に始まったとされる中尾山の陶磁器生産。現在でも20程度の窯元・商社が陶郷としての歴史を守っており、郷を歩けば随所にもものづくりの気配を感じることができる。

『陶房 青』が建つのは、中尾山のほぼ中央。石畳が敷かれた細い路地を上る途中に佇む。窯主を務めるのは、大きな体と柔和な笑顔がチャーミングな吉村聖吾さん。19才という若さでやきもの世界に飛び込み、

父親の跡を継いだ。『陶房 青』を構成するのは10人の職人たち。大学を出たばかりの若手から絵付け歴30年を誇る大ベテランまで、経験値も出身地も様々だ。しかし、すべての職人の心にあるのは、「決して奇をてらわず、暮らしの中でのほっとする心のなごみになる器づくり」という信念。現代の暮らしのなかで使える日常食器を、先人陶工の技術や知恵をもとに生み出している。

← 工房を覗いてみよう！



窯主の吉村聖吾さん。大きな手から、繊細な形状が生まれる様子は魔法のよう。

1・成形

様々な成形方法があるが、『陶房 青』ではロクロや押し型を多く使用する。押し型とは石膏の型に陶土を押し込んで成形する方法で、複雑な形状の製品を大量に作る時に用いる。

ロクロ



上／ひとつずつ異なるニュアンスが生まれるのがろくろの面白さ。右／一度ろくろでひいた生地を型に押し付け形状を作る。

押し型



2・乾燥・素焼き



成形直後の生地は水分を多く含む。水分が残った状態で素焼きをするとヒビやひずみが生じて製品の欠陥につながるため、乾燥した後に行う。



3・下絵付け

素焼きをした生地に絵具で描画。下絵付けの後、釉薬を施して本焼きをすることで釉薬が溶けて絵具が発色する。下絵は釉薬の下に絵具があるため、耐久性が高いのも特徴。



4・釉薬

色彩や肌合いといった装飾性だけでなく、汚れ・水漏れ防止の機能性も付加する釉薬。波佐見では、呉須の発色性や焼成温度の条件から透明な石灰釉を多く用いる。



釉薬をかけたくない箇所には、溶かした蠟を塗る「蠟抜き」を施す。

5・本焼成

多くの陶磁器は、約1000℃まで酸化炎焼成を行い、次に還元炎焼成に切り替えて温度を上げ、最後は中性炎に近い還元炎焼成で約1300℃の焼成をする。

6・上絵付



釉薬の上に上絵具を用いて装飾を施す。下絵付けと異なり多彩な絵具があるため、デザインの幅も広い。上絵付の後、750～850℃で焼きつける。

7・検品をして完成！

完成した商品は、商社や契約店舗に卸されるほか工房併設のショップにも並べられる。ショップでは、市場に出回っていない商品にも出会うためここではない楽しみがある。



住所：中尾郷982
電話：0956 (85) 4344
営業時間：8時15分～17時
定休日：日曜日・土曜日不定
ショップ：有
工房見学：☑





上／ナチュラルな雰囲気
の粉挽き。
下／ショップは工房
に併設しており、作
業の様子を見ることが
できる。



手にしっくりと馴染む
素朴な心地よさ

04 筒山太一窯

TSUTSUYATAICHIGAMA

ざっくりとした温かみのある『筒山太一窯』の土ものは、料理を引き立てる名脇役。使い込むほどに風合いを増し、愛着がわくと評判だ。土は信楽に天草のものを混ぜ、強度を高めているそう。また、様々な釉薬で魅せるバラエティーに富んだ表現も持ち味で、目でも楽しめる器を提供している。

住所：中尾郷1018／電話：0956(85)4912
営業時間：8時30分～17時／定休日：土日祝日
ショップ：有(9時～17時・土日祝日定休)
工房見学：[可](#)



エッジの効いたフォルムの「しのぎプレート」は3色展開。全色揃えたくなるカラーバリエーションだ。

モダンなNeo Hasami

05 一龍陶苑

ICHIRYUTOUEN

“器作りは よるこびつくり 夢創り”を胸に、1866年の創業から日常食器を作り続ける。老舗ながらも、作る器は現代の食卓に合わせたシンプルモダン。色釉のバリエーションが楽しい「しのぎ」をはじめ、中国のスワウ刺繍をイメージした「スワウ」など女性を意識した企画も並ぶ。

住所：中尾郷975／電話：0956(85)2037
営業時間：8時～17時／定休日：土日祝日
ショップ：くらふと龍(9時～16時・不定休※要問合せ)／工場見学：[不可](#)



上／呉須で描いた花唐草は、絶妙な濃淡で表情をつける。右／猫をモチーフにしたチャーム的な皿。



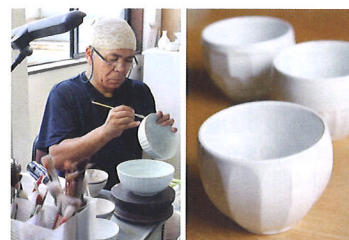
手作り・手描きが基本
本当にいいものを真面目に

06 洸彩窯

KOUSAIGAMA

京都市の土谷瑞光窯で修業し、平成3年に中尾山に窯を開いた梅野浩彦さん。信楽風の焼き締めと伝統的な染錦を組み合わせ、土もの特有の趣きに京焼風の優雅さを融合させた。草花や葡萄などの植物を描いたものや、猫・ウサギといったユニークなモチーフの作品が揃い選り好みも多い。

住所：井石郷419の7／電話：0956(85)7223
営業時間：8時～17時／定休日：日曜日(電話予約で対応可能な場合あり)／ショップ：有
工房見学：[可](#)



『一真陶苑』の代名詞「白磁手彫」。何十本ものカンナを使い分け、縦横無尽に表情をつけていく。ジンプルな個性のテーマ通り、どのような生活様式にも合うが他にはない個性をもっている。最近では、白磁手彫にアレンジを加えた色染カンナも登場。作り手の誠意を感じる心器は、全国区の人気を誇る。

住所：中尾郷670
電話：0956(85)5305
営業時間：9時～17時
定休日：不定
ショップ：ギャラリーとつと(10時～16時・不定休)
工房見学：事前予約で[可](#)



住所：中尾郷627
電話：0956(85)4550
営業時間：9時～17時
定休日：不定
ショップ：有
工房見学：[不可](#)

マットな青銅釉は、古い時代から発掘されたような趣き。蓮がエキゾチックな雰囲気醸す。



自宅兼ギャラリーは中庭を囲む穏やかな空間。若いスタッフの意欲的な作品も並べられている。

右／飲み物やデザートカップに使える「しのぎフリーカップ」。
左／ユニークな人柄で来訪者をもてなす窯主の眞崎善太さん。

料理を引き立てる
光を宿した美しい白

02 一真陶苑

ISSHINTOUEN



飛び鉋に染色を施した「色染カンナプレート」。皿の下に土台として敷く、オリジナル木製プレートもあり。



03 光春窯

KOUSHUNGAMA

技術に感性をぶつけて
多彩な作風を模索

シャープな白磁・伝統的な染付・異国を思わせる意匠。ひとつの窯元から生み出されたとは思えないラインナップは、訪れた人を驚かせる。窯主である馬場春穂さんは京都で修業をしており、その時代に身につけた赤絵を活かした作品も。受け継いだ技術に自由な感性をプラスした器は、毎日彩る逸品揃いだ。

気になる中尾山の30代 中川紀夫さん&長瀬渉さん

column

Uターンの中川さんと、Iターンの長瀬さん。
歴史ある陶工の郷に新風を呼び込んだ2人をピックアップします。

毎日の暮らしに欲しい温かな器

器の表面を泥漿状の化粧土で装飾するスリップウェア。持つと心地よい重みがあり、表面はぼったりと艶やか。器そのものがマーブルを施したスイーツのようで、そこに料理を盛れば2倍も3倍も美味しそうに見せてくれる。

栃木県益子焼の窯元「大誠窯」で修業をした中川さんは、2004年に開催された「スリップウェア展」をきっかけにスリップウェアの器づくりをスタートさせた。難しいのは化粧土の配合で、生地が表面が生乾きのうちに素早く模様を描いていく。朴訥とした雰囲気の中川さんから生まれるラインは、伸びやかで有機的な魅力がある。



1. オープンにも使用可能。グラタンを焼いて、そのまま食卓に並べることもできる。2. デザートを盛りつけるのにぴったり。3. 自然の流れにまかせた模様は、同じものはふたつとない。

◆ Profile

1980年長崎県東彼杵郡波佐見町生まれ。2001年秋田公立美術工芸短期大学卒業後、栃木県益子市「大誠窯」にて修行。2009年より波佐見に戻り、「紀窯」を築窯。

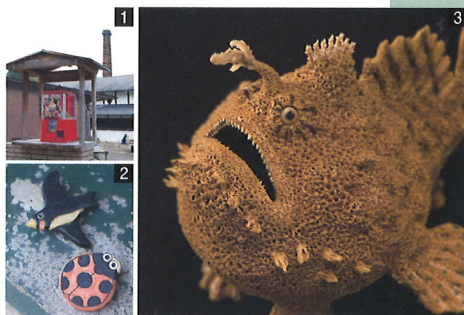
紀窯 きがま

住所：中尾郷665の1
電話：0956(85)3338
営業時間：8時～17時
定休日：不定
ショップ：有／工房見学：可

10

山の製陶所跡地で生まれる海の命

生まれは山形県の山寺近くに建つ窯元。釣り道具を片手に全国を行脚する途中、たどり着いたのが波佐見町だった。人との縁が重なり、「西の原」など今の波佐見のランドマークとされるエリアの立ち上げに尽力。その後、やきものの町・波佐見にて自らの窯を構えることになった。中尾山に移設したのは2014年。現在は、製陶工場跡地をリノベーションしながら作陶活動を行っている。長瀬渉さんといえば、海洋生物をモチーフにした作品。マクロレンズで覗いたような精巧な世界に、生態のワンシーンを切り取ったかのような命が広がっている。



1. 改装中の敷地前には、長瀬さんが作るブローチのガチャガチャが設置されている。2. ガチャガチャは1回500円で、何がでるかはお楽しみ。3. 鋭い観察力で細かな歯や表面の質感を表現。

◆ Profile

1977年山形県山形市生まれ。2002年東北芸術工科大学美術学科工芸大学院修了。2003年東京藝術大学工芸科研究生修了後、波佐見町へ移住。2014年より製陶工場跡地を購入し、「ながせ陶房」を移設・築窯。同敷地内を「トラスネ」としてリノベーション中。

ながせ陶房 ながせとうぼう

住所：井石郷417の2
電話：0956(59)5432
工房見学：可

11



上／可愛らしさの中にも、モノトーンで落ち着きを演出。
右／工房に併設するショップには、新作がいち早く並ぶ。



世界最大級の登窯跡を備える
波佐見の栄華を伝承する

08 大新窯

OHSHINGAMA

大村藩の藩窯として開かれ、江戸・明治時代を通して多くのやきものを生み出してきた窯元。敷地内には全長170m・窯室39室を備えたとされる「大新登窯跡」を持ち、先人陶工の華やきを今に伝える。現在は普段使いに活躍するシンプルな器や、カラフルな絵付けが楽しい日常食器を提案。

住所：中尾郷767／電話：0956(85)2652
営業時間：8時～17時／定休日：不定
ショップ：天空(要予約)
工房見学：事前予約可



上／下に向けて少しシェイプした「ST」シリーズ。下／縦ぎ目のあるデザインは、ブリキカップがモチーフ。

実用的な可愛さで
欲張りな女性の心を掴む

07 馬徳陶苑

BATOKUTOUEN

「いただきます」と「ごちそうさま」の間で思わず笑顔になる食卓を演出。昔ながらの肥前柄をモダンに仕上げた器や、手彫りで仕上げた穴に独自配合の釉薬を流し込んで焼く「ホタル焼」など食事の時間が待ち遠しくなる品々が自慢だ。ユーモラスな動物が描かれたシリーズは出産祝いにも最適。

住所：中尾郷981／電話：0956(85)3932
営業時間：9時～17時／定休日：第1・3日曜日
ショップ：ぎやらりー Only碗
工房見学：事前予約可



高台に建ち、敷地内からは中尾山を見晴らす。若い世代に向けた彩り豊かな器や子ども向け食器も多数。



白の可能性を広げ
波佐見焼を新境地へ

09 堀江陶器

HORIETOUKI

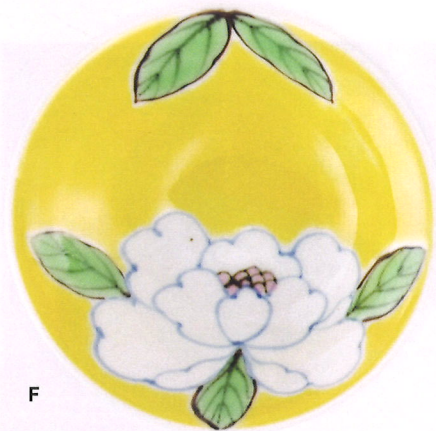
インテリアスタイリストや雑貨プランナーと共同企画をした「エイチ・プラス」シリーズ。シンプルな装いに程よい存在感をプラスし、「ありそうでなかった」器を提案する。ほか、オーナメントや小物入れ、カトラリーなど商品展開は多岐に渡り、ライフスタイル全般をプロデュース。

住所：中尾郷668／電話：0956(85)7316
営業時間：9時～18時／定休日：日祝日、土曜日不定
ショップ：有(9時～16時・日祝日定休※土曜日は要問合せ)

彩り豆皿

Irodori
Mame Zara

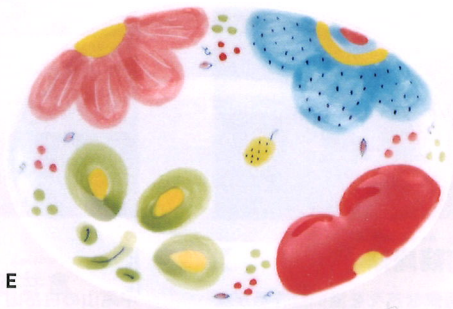
手のひらにすっぽりと収まる豆皿は、
小さいながらも食卓を華やかに彩ります。
調味料を入れたり、
前菜をちょこんとのせたり、
美味しいおやつを添えたり…。
「中尾山に行ってきたよ」なんて、
気軽に渡すお土産にも最適です。



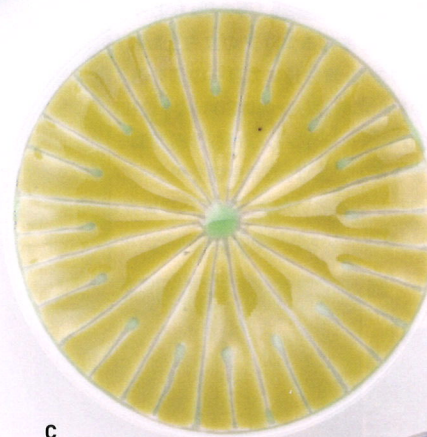
F



D

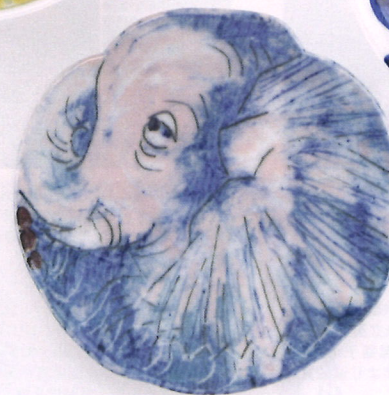


E



C

B



A



D. 光春窯

マットな質感に透明感も含んだトルコ釉は、春の青空のように涼しげ。シンプルでありながらもひと工夫を加えたフォルムは、飽きのこない良質デザイン。

1,000円／φ:13.5cm ※データはP3へ

E. 工房 あかり

パステルカラーの鮮やかな絵付けを特徴とする啓子さんの作品。使う人の心を弾ませるハッピーなデザインで、多くの女性を魅惑している。

1,000円／φ:約11cm ※データはP9へ

C. F. 大新窯

C. グリーンがかった落ち着いたイエローを採用し、華やかなデザインながらも主張しすぎない一枚。

1,300円／φ:約9cm

F. ビビッドなイエローに白いボタンが良く似合う。和洋中と様々な料理に合い、食卓の中心に彩りを添える。

1,300円／φ:約9cm ※データはP5へ

B. 陶房 青

丁寧な筆致と柔らかな濃淡が持ち味。一枚一枚手描きで描かれているため、すべての表情が異なる。フクロウやゴリラも揃えて、食卓を小さな動物園に演出しよう。

2,000円／φ:約10cm ※データはP1へ

A. 馬徳陶苑

2015年にお披露目された新シリーズ「hana」。爽やかな青の花に、赤いアクセントをプラス。手描きならではの濃淡も魅力だ。茶わんやフリーカップもあり。

800円／φ:約10.5cm ※データはP5へ



ひらいせいとうしょ

19 / 平井製陶所

40年以上作り続けている土瓶は、飲食業界を中心としたプロから選ばれる良品。工房併設のショップを訪問する場合は、電話確認をしてから訪ねよう。

住所：中尾郷708 / 電話：0956(85)3043
営業時間：9時～17時 / 定休日：日祝日
ショップ：有(要予約) / 工房見学：不可



きほうせいとうしょ

17 / 輝峰製陶所

人気は葡萄を描いた白磁のシリーズで、爽やかな絵付けがギフトにも最適だ。中尾山に建つショップは、桜陶祭や秋陶めぐりなどイベントを中心にオープン。

住所：永尾郷346 / 電話：0956(85)4317
営業時間：8時30分～17時 / 定休日：不定
ショップ：有(中尾郷628の1・要予約) / 工房見学：事前予約可

20 / 光玉陶苑

こうぎょくとうえん

桜陶祭や秋陶めぐりといったイベント時のみ開放され、自社ブランドの商品が購入できる。時代の流れを取り入れた商品に注目を。

住所：中尾郷888 / 電話：0956(85)3021
営業時間：8時～17時 / 定休日：土日祝日
ショップ：無(一般販売はイベント時のみ) / 工房見学：不可



こうめいがま

18 / 孔明窯

2014年にショップをリニューアルし、より快適に商品選びができる空間に生まれ変わった。白磁にドットを描いた新シリーズが若い世代に好評。

住所：中尾郷665の1 / 電話：0956(85)3338
営業時間：8時～17時 / 定休日：不定
ショップ：有 / 工房見学：可

21 / 中尾山うつわ処 赤井倉

あかいぐら

国の登録有形文化財に指定されている『赤井倉』では、波佐見焼を中心とした器の購入が可能。秋陶めぐりにはジャズライブが開催され、一層賑わいをみせる。

住所：中尾郷929 / 電話：0956(85)3359
営業時間：10時～17時 / 定休日：水曜日



食事・体験

地元食材を使った自然派料理と石窯を使ったピザ焼き体験

文化の陶 四季舎

しきしゃ

住所：中尾郷660 / 電話：0956(27)6051
営業時間：10時～17時(体験は～15時)
定休日：木曜日 / ピザ焼き体験1枚1,500円(前日までに要予約)。黒米カレー600円ほか



買い物

散策の前に立ち寄りを
中尾の作品が集まる合同展示所

交流館

こうりゅうかん

住所：中尾郷157
電話：0956(85)2273
営業時間：9時～17時 / 定休日：火曜日



体験・宿泊

手びねり・絵付け体験
宿泊のみの利用も可能

中尾山 伝習館

でんしゅうかん

住所：中尾郷332 / 電話：0956(85)6127
営業時間：10時～17時 / 定休日：火曜日
【陶芸体験】手びねり1,500円～、絵付け800円～1,000円程度 ※予約優先・送料別途

／ まだまだあるよ！ こちらもチェック ／



14 / 工房 あかり

絵本の世界から飛び出したような、毎日の生活に彩りを与える作品が並ぶ。器やパターナフなどキッチンツールのほか、柔らかな光が零れるランプもお勧め。

住所：井石郷419 / 電話：0956(85)2067
営業時間：9時～16時 / 定休日：不定
ショップ：有 / 工房見学：不可



りゅうあんがま

15 / 龍庵窯

桔梗やボタンといった、可憐な花々を描いた作品が女性を中心に好評。金との組み合わせが豪華なグラス(写真右)は、高級感を感じさせる作品だ。

住所：中尾郷890 / 電話：0956(85)4247
営業時間：8時～17時 / 定休日：日曜日
ショップ：有 / 工房見学：事前予約可



けんざうがま

12 / 賢三窯

中尾山の白岳山で採れた土を使用するなど、物語を宿した作品が揃う。薪窯で焼き上げるため、作品ひとつずつが異なる風合いを持つ。表情の違いを楽しもう。

住所：中尾郷638 / 電話：0956(85)4750
営業時間：不定 / 定休日：不定
ショップ：童仙房(中尾郷634・要予約) / 工房見学：不可



こよう

16 / 古窯

お店のオープン祝いなどに最適な招き猫は、全長約53cmと迫力のある大きさ。ほか、季節の花々を映しこんだ箸置きやストラップ、風鈴など多彩な商品が揃う。

住所：中尾郷870の1 / 電話：0956(85)7754
ショップ：無(商品の購入は交流館にて)
工房見学：不可



いけすえせいとうしょ

13 / 池末製陶所

手作り・手描きにこだわった土ものを作るこちらの器は、男性的な大胆さが魅力。可愛らしい表情のお地藏様は手作り感たっぷり、手にした人を和ませる。

住所：井石郷419 / 電話：0956(85)4319
営業時間：8時～17時 / 定休日：土日祝日
ショップ：無(商品の購入は交流館にて) / 工房見学：不可

23 / 鬼木加工センター



鬼木の台所から
美味しいと安心を

楠本さん・前田さん・岩崎さんの3人が中心となり、地元素材を使った加工品を製造販売。安心して食べられる無添加の品々は、家庭用はもちろんお土産にも最適だ。

「きなこ(90g)」200円、「かりんとう(120g)」324円、「ゆずこしょう(110g)」540円、「うめぼし(300g)」540円、「鬼木みそ(750g)」540円、「棚田米(2kg)」1,080円ほか



住所：鬼木郷990の5
電話：0956(85)7416
営業時間：8時30分～12時、
13時～17時
定休日：日曜日

鬼木に
来なっせー



24 / 原田製茶



北向きで山に面した茶畑は、日照時間が短く渋みの少ないお茶を育てる。また、魚粕やなたね油粕などの有機質肥料を主体とした施肥も行っており、環境に優しく、味の良いお茶作りにも取り組む。

「笑茶(100g)」500円、「福茶(100g)」800円、「緑茶(100g)」1,000円、「心茶(100g)」1,500円ほか ※商品の購入は鬼木加工センターでも可能です。

自然豊かな棚田で
育まれたお茶



住所：鬼木郷25
電話：0956(85)3047
FAX：0956(85)3070
営業時間：不定
定休日：不定
<http://www.harada-tea.com/>

足を伸ばして

ONIGI

鬼木へ

中尾郷からひと山越えれば、馬蹄形に広がる棚田が美しい「鬼木郷」に到着する。世帯数70戸、人口250人ほどの小さな集落で、米やお茶の生産を中心とした農業地域だ。一番の見どころは、棚田百選にも選ばれている「鬼木棚田」。四季を通して表情豊かな景色を臨め、黄金色の稲穂と真っ赤な彼岸花が咲く秋は多くの人で賑わう。毎年9月の秋分の日には、「鬼木棚田まつり」が開催。その年の流行や世相を落とし込んだユニークなかがし展示などが行われる。



22 / 鬼木の棚田展望所

ユニークな“かがし”コレクション 「鬼木棚田まつり」の情報は巻末ページへ



陶郷 中尾山 & 棚田の里 鬼木 散策マップ

窯元が点在し、ものづくりの気配が満ちる「中尾山」、
田と茶畑が広がり、美しい棚田をもつ「鬼木」。
個性の異なる2つのエリアをゆっくりと散策しましょう！



散策が楽しく・便利になる

中尾山の公式サイト&アプリができました

使い方 ⇒ で検索 🔍 ⇒ もしくは QRコード を読み込み



1 中尾山を巡るマイマップを作成



バナーをクリック

目的や所要時間に応じた
マイマップを作ることができます。

2 音声ガイド・最寄りのスポットをチェック



バナーから無料アプリを
ダウンロード

音声解説が聞けるほか、スマートフォンやタブレットを通して
中尾山を見回すと、最寄りのスポットの情報や正確な位置情報、
昔の風景を古い写真で重ね合わせて見るすることができます。

楽しく
散策



URL <http://hasami-nakaoyama.com/>

中尾山&鬼木～春と秋の注目イベント

桜陶祭 (おうとうさい)

【開催地】中尾山一帯 【開催日】毎年4月の第1土日

桜の咲く時期に開催され、中尾山が最も華やぐ2日間。窯元の一般開放のほか、
音楽イベントや参加型ゲームなどが催されます。なかでも人気の、数量限定
で販売される「陶箱弁当」。器にお弁当が付いた贅沢な内容です。

鬼木棚田まつり (おにぎたなまつり)

【開催地】鬼木郷 【開催日】秋分の日

鬼木の棚田周辺の沿道に、100体を超えるユニークなかかしが並びます。開催日
当日には、ウォークラリーやふるまい、地元自慢の農産品や加工品の販売が行わ
れ、のどかな景色のなか散策を楽しむ人で賑わいます。

秋陶めぐり (しゅうとうめぐり)

【開催地】中尾山一帯 【開催日】毎年10月下旬の土日

各窯元がお菓子や軽食のふるまいを用意するなど、いつもとは違った装いで
来場者をもてなします。穏やかな陽気の中、窯元めぐりを楽しみましょう。



観光の問い合わせ: 波佐見町観光協会 tel: 0956-85-2290 <http://www.hasami-kanko.jp/>

記載データは2016年5月取材時のものです。営業時間・定休日など変更になる場合がありますので、訪問前の問い合わせをお勧めします。

企画・編集 / 波佐見町地域おこし協力隊 村上奈都美、デザイン / 樋渡孝司、写真 / 鶴田英治・藤本幸一郎